



(Too Many Fishes) 2013
Oil on canvas 170x200cm ©Ay Tjoe Christine, courtesy of Ota Fine Arts

アイ・チョー・クリスティン れいせい ぐうい 靈性と寓意

2018年4月28日(土)～
8月19日(日)

展覧会名	アイ・チョー・クリスティン 靈性と寓意
会期	2018年4月28日(土)～8月19日(日)
休場日	毎週月曜日(ただし4月30日、7月16日、8月13日は開場)、7月17日
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで) ※チケット販売は閉場の30分前まで
会場	金沢21世紀美術館 展示室7～12、14
料金	一般=1,000円(800円) / 大学生=800円(600円) 小中高生=400円(300円) / 65歳以上の方=800円 ※()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金
前売り券取扱い	チケットぴあ TEL: 0570-02-9999 Pコード:768-860 ローソンチケット TEL: 0570-000-777 Lコード:52109
出品数	約50作品(予定)
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL: 076-220-2800
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
協力	オオタファインアーツ

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館 事業担当: 内呂・立花 広報担当: 落合・石川
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会概要

アイ・チョー・クリスティン (Ay Tjoe Christine, 1973-) はインドネシアの西ジャワ州バンドン出身の、インドネシアで活躍している現代アーティストです。彼女はドライポイントなどの凹版印刷の技術を習得した後、テキスタイルデザイナーとしてキャリアを積み、2000年頃からアーティストとしての活動を本格的にスタートさせました。

キリスト教の説話や精神的主題に基づいて表現を行うアイ・チョーの作品は、人間の不完全性や二面性についての深い洞察に裏付けられています。とりわけ絵画における飛び散るような色彩の断片は自身の揺れ動く感情の在りようを示す一方、カンヴァスの余白との魅力的な調和をみせる抽象化されたイメージには、万物と人間との関係性を探求するアイ・チョーの真摯な姿勢が現れているようです。

アイ・チョーの日本の美術館での初個展となる本展は、活動初期のドライポイントやドローイング、具象から抽象の間で表現の可能性を探求してきた油彩画群、ソフトスカルプチャーや大規模なインスタレーション、さらに本展のために制作された新作の大型絵画など、約50点の作品を通して、およそ20年にわたる多角的な創作活動の成果をご紹介します。



《We Are Getting Highly Overrated Because You've Never Known Us 01》2015
170x300cm Oil on canvas ©Ay Tjoe Christine, courtesy of Ota Fine Arts

展覧会の特徴

美術館で初の本格的かつ大規模な個展

本展は、インドネシアの現代アーティストであるアイ・チョー・クリスティンの日本の美術館での初個展です。彼女が本格的に作家として活躍する以前のドローイングや版画をはじめ、具象から抽象あるいは抽象から具象へと行き来しながら、情熱的かつ静穏で深い精神性をたたえた油彩画群、さらに自己洞察の試みとして制作されたソフトスカルプチャーや大規模なインスタレーションなど、総数約50点をご覧いただけます。



《Freezing 01》2017-2018
170x200cm 油彩・カンヴァス
©Ay Tjoe Christine, courtesy of Ota Fine Arts

アジアのまなざしが映し出す多様性

多民族、多言語、多宗教の東南アジア地域では、じつにダイナミックで多様な文化が育まれてきました。本展では、自由の希求、アイデンティティ、成長とその影、コミュニティ、信仰と伝統、歴史の再訪など、東南アジアにおける現代アートの特徴とその発展の一端を垣間見ることができるでしょう。



《Lama Sabakhtani #01》2010
430x250x400cm ミクストメディア・インスタレーション
©Ay Tjoe Christine, courtesy of Ota Fine Arts

世俗的な時代の中で

「世俗の時代」あるいは「理性の時代」と呼ばれる現代において、今に生きるアーティストの多くは自己の理性や感性に基づく作品を次々に生み出します。その一方で、アイ・チョーはキリスト教の聖書、すなわち「外」の世界に着想を求めます。宗教に起因するものばかりではありませんが、宗教という「人」を見つめるまなざしを内包するアイ・チョーの作品は、人間存在の本質や生きるうえで重要な価値や意味を見いだすきっかけを今の時代に与えてくれるのかもしれない。

純粋な絵画の可能性を探求するアイ・チョー

近年、アートの表現方法はますます多様化しています。その中において、時に彫刻やインスタレーションに挑戦しながらも、純粋に絵画表現を追い求めるアイ・チョーの姿勢は、現代美術館として常に考えていかなければならない、「芸術とはなんであるか」という問いを我々に投げかけているかのようです。

「金沢」という都市で開催する意味

アジアとヨーロッパの歴史や文化、宗教のはざままで独自の創作活動を展開するアーティスト、アイ・チョー・クリスティン。彼女の20年におよぶ活動を回顧する展覧会を、東アジアをはじめとするアジア圏の多様な文化を受容し、またその独自の文化を世界に発信してきた国際都市・金沢において開催することは、世界各国の都市に対する理解や協働を絶えず模索するこの街で、多様な文化や宗教について理解を深めるきっかけとなることでしょう。

作家プロフィール

アイ・チョー・クリスティン

1973年、バンドン（インドネシア）に生まれる。1997年バンドン工科大学を卒業。テキスタイルデザイナーとして働いた後、2000年頃から創作活動を開始した。以降、インドネシアをはじめとする東南アジアで定期的に個展を開催する一方、ニューヨーク、ロンドン、ベルリン、北京などの国際展にも多数出品している。2001年、フィリップ・モリス・インドネシアン・アートアワードで入賞したのを皮切りに、2009年には香港アートフェアにおいてSCMPアート・フューチャー・プライズを受賞、また2015年にはプルデンシャル・アイ・アワード（絵画部門）を受賞するなど、着実にアーティストとしての地歩を築いている。



関連プログラム

アーティスト・トーク「アイ・チョー・クリスティン 霊性と寓意」

アイ・チョーは、自身の作品について語る際に、しばしば「霊性」や「寓意」（あるいは寓話）といった形而上的な言葉を用います。それらは、彼女自身の宗教観あるいは人間観に基づいて端的に発せられた言葉だと思われそうですが、気ままで無秩序にも見える彼女の作品の第一印象とは大きなギャップを感じさせます。アーティスト・トークでは、人生の普遍的な問題に常に向き合ってきたアイ・チョー芸術の特質を、本展出品作品を通して作家自身が解き明かします。

日時：2018年4月28日（土）14:00-15:30

場所：金沢21世紀美術館 レクチャーホール

料金：無料

定員：80名

申込方法：ウェブサイトにて4月6日（金）10:00から申込み受付開始（先着順）

※逐次通訳付き

※都合により、プログラムの内容を変更する場合がございます。

広報用画像

画像1～7を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。

Email: press@kanazawa21.jp

[使用条件]

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

6



《I need your hand #2》2009
135x170cm アクリル・カンヴァス
©Ay Tjoe Christine, courtesy of Ota Fine Arts

7



《3-2 #01》2010
170x200cm 油彩・カンヴァス
©Ay Tjoe Christine, courtesy of Ota Fine Arts